

校内研修計画

山梨市立山梨小学校

1 学校課題

21世紀は「知識基盤社会」といわれている。「知の創造・継承・活用」が基盤となる社会に主体的に関わることでできる児童・生徒を育て、送り出していくことが学校教育に求められている。そのため学校ではたくさんの知識を習得させるだけでなく、習得された知識や技能を生かした柔軟な思考力に基づく判断ができる児童・生徒を育成していかねばならない。しかし、PISA調査の結果や、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、知識・技能を活用する力に課題が見られ、活用する力をつけるため、思考力・判断力・表現力の育成が、大きな課題として取り上げられるようになった。

現行学習指導要領では、「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健やかな体）の理念とともに、改正教育基本法で示された学力の三つの要素「基礎的な知識・及び技能」「思考力・判断力・表現力その他の能力」「主体的に学ぶ態度」を育むことが重要であると明確に示している。「生きる力」の育成は、本校の教育目標に照らしても重要なことであるといえる。

「生きる力」の知の側面である「確かな学力」は、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や、自ら課題を見つけ、判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含んでいる。子供たちに「生きる力」を育むため、「確かな学力」を育成するという考えのもとに、思考力・判断力・表現力の育成を図るなど、学習指導要領に基づいた指導を充実させることが求められている。

2 研究主題

よく考え、すすんで学習する子供の育成
～「活用学習」と「学級力向上」をもとにした言語活動の充実を目指して～

3 主題設定の理由

一昨年度より、山梨市の学力向上推進委員会の考えをもとに、本校の算数科の課題である、筋道をたてて考える力、記述して説明する力、判断する力を身につけるための手だてとして活用学習を取り組んできた。さらに確かな学力を支える手だてとして学級力向上の取組も研究してきている。今年度は、昨年度の研究の成果を生かし、さらに本校の課題もふまえ、言語活動の充実を進めるために学級力向上プロジェクトの取組を全体研究として取り組み、算数科を中心とした活用学習の教材化に取り組むことにより、テーマに迫ることとする。

4 研究の具体的内容与方法

研究（1）学級力向上に向けた研究

- ①学級力向上プロジェクトについての学習会
- ②学級力向上を活用した実践（全学級）
- ③学級力向上を活用した実践交流（全学級）
- ④Q Uを生かした学級分析と省察

研究（2）活用学習

- ①活用学習についての学習会
- ②活用学習の教材化（新教育課程）
- ③活用学習の授業実践

年間校内研修計画

松岡 めぐみ

テーマ	研 究 内 容	教科	担 当	学年	時期	TC要請
よく活用し、学習と学習をすすんで学習する子どもに力をつけての育成活動の充実を目指して	研究主題・仮説・内容・方法・計画等		研究主任		4月	
	研究計画・研究組織・授業研究について		研究主任		4月	
	学習会		研究主任		5月	
	各ブロックの研究・ブロック研究計画		ブロック長		5月	
	山梨県学力把握調査結果考察と今後の指導について		教務主任, 研究主任		6月	
	各ブロックの研究		ブロック長		6月	
	各ブロックの研究		ブロック長		7月	
	各ブロックの研究・個人の実践について		ブロック長・個人		7月	
	各ブロックの研究		ブロック長		8月	
	教育課程環流学習会・ブロック研究		教科主任, 研究主任 ブロック長		8月	
	全国学力学習状況調査結果考察と今後の指導		研究主任, 教務主任		9月	
	各ブロックの研究		研究主任, ブロック長, 授業者		9月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会①		国算 研究主任, ブロック長, 授業者	4年	10月	○
	各ブロックの研究		ブロック長		10月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会②		国算 研究主任, ブロック長, 授業者	2年	11月	○
	各ブロックの研究のまとめ		ブロック長		11月	
	個人実践のまとめ		各担任		11月	
	研究のまとめと次年度の方向性について		研究主任		2月	